

母子相互作用と育児に関する 社会学的ならびに疫学的検討

—Employed Mother の母性意識に関する調査—

植田 理彦 (財)日本健康開発財団)
力石 道勝 (")

I 研究の実施要領

1. 研究目的

本研究は、年齢4歳から15歳までの児童を有する主婦と職業婦人が、母性意識や健康実態の上でどのような状況にあるかを研究することを目的としている。

2. 研究対象

今回は対象を主婦と職業婦人の二つのグループに分けて、母性意識を中心に研究した。

3. 研究方法

(1) 当健康センターで受診し、3歳～15歳までの児童を有する主婦と職業婦人に対して、メールによるアンケート調査を行なった。

回収結果は以下のとおりである。

主婦

アンケート数267 回収数102 回収率38.2%
職業婦人

アンケート数240 回収数81 回収率33.8%

(2) アンケート調査による育児方針、子供とのふれあい方、人生観などについて比較分析をした。

(3) 主婦ならびに職業婦人の結婚年齢、子供数、自然流産、人工流産の回数を集計した。

(4) 112項目の自覚症状を調査した。

II アンケート調査結果の分析

1. 社会的属性

社会的属性については、年齢、職業、子供の数、子供の年齢、最終学歴、住居形態、居住形態、世帯の年収について調査をした。

また、今回の調査で職業婦人は、一般事務職、専門職が双方とも33.3%、以下パートタイム18.2%、自由・自営業12.1%、労務職3.0%という構成であった。

社会的属性で、主婦と職業婦人との間で若干の

開きがあったのは、居住形態、世帯の年収であった。

まず居住形態では、主婦は核家族が88.8%、両親と一緒8.9%、その他2.2%であるが、職業婦人では核家族が69.7%、両親と一緒は27.3%、その他3.0%となっており、職業婦人が両親と一緒のケースの方が18.4ポイント高い。これは、両親と一緒だと安心して子供をまかせられて、働きに出かけられることの反映である。また、世帯の年収については主婦の方が700万円以上に43.8%、職業婦人が27.2%と、主婦の世帯年収が高いのは、経済的に安定しているから働きに出る必要がないのであろう。

2. 育児方針、時間、ふれあい方法(図1)

「あなたは子供の育て方について、ご主人とよく話す方ですか」という質問に対しては、職業婦人が「よく話す方である」に51.1%、主婦が30.3%と約20ポイント職業婦人の方が高い。一見、自由裁量時間の多い主婦の方が高いと考えがちであるが、結果は逆となっている。これは、自由時間が少ないからこそ、職業婦人の方がご主人と子供の育て方について話す機会をつくるためであろう。

ただ子供との団らんの時間の長さでは、1時間30分から3時間ぐらいにかけては主婦が53.9%、職業婦人が36.3%と、主婦の方が団らん時間が長いという結果があらわれている。

また団らんの機会は、主婦が「日中」にやや高いウエイトを示している他は、両者とも「夕食時」に70%前後の団らんをしている。

育児方針については、両者とも「ほぼ同じ意見である」に75%前後を占めており、「意見が合わない」とか、「まったく意見が違う」とかいうことはほとんどなかった。

同様に、子供を育てていく上で最も重点を置いている点も「健康」が75%前後、「しつけ」や「仲間とよく遊ぶ事」が10%前後と同じ数値を示している。

ただし、「他人の子供が気になる方ですか」という質問に対しては、「とても気になる」「まあまあ気になる方である」の両者を合わせた集計が職業婦人の方が他人の子供を気にする率が高くなっている。

(表1)は、主婦・職業婦人の母性意識の分布をみたものである。この表をみると、母親としての心理、子供に対する母親としての存在は主婦であろうが、職業婦人であろうが根本的に大きな差はない。むしろ、質問項目によっては、職業婦人の方が母親としての意識が強いと思われるものもある。

また、生きがいについては、両者とも夫とか子供に対しては差はないが、職業については明確に、職業婦人は職業意識をもっていることがわかる。

「生きがい」については(図2)に示す。

III. 主婦・職業婦人の結婚年齢、子供数、流産、の回数調査結果

1. 結婚年齢(表-2)

現在の年齢の女性が結婚した当時の年齢を示している。各年代で、20~24歳で結婚したものが多い。

2. 子供の数(表-3)

子供の数については、各年代とも2人が圧倒的に多い。年代がすすむにつれて、子供の数も多くなっている。

3. 自然流産の回数(表-4)

1~2回の自然流産がみられ、年代では30~34歳に1回以上の自然流産が多い。

4. 人工流産の回数(表-5)

その原因は問診していないが、各年代で1回の人工流産は高率にみられる。

IV. 自覚症状調査の結果

主婦と職業婦人の自覚症状の上位4番までしらべると、両者に差はなく以下の通りであった。1. 首すじや肩、背中がこる、2. 眼が疲れやすい、3. 痔になったことがある、4. 家族に高血圧や脳卒中になった人がいる。次いで職業婦人では帯下が多い。主婦では手術を受けたとなっている。

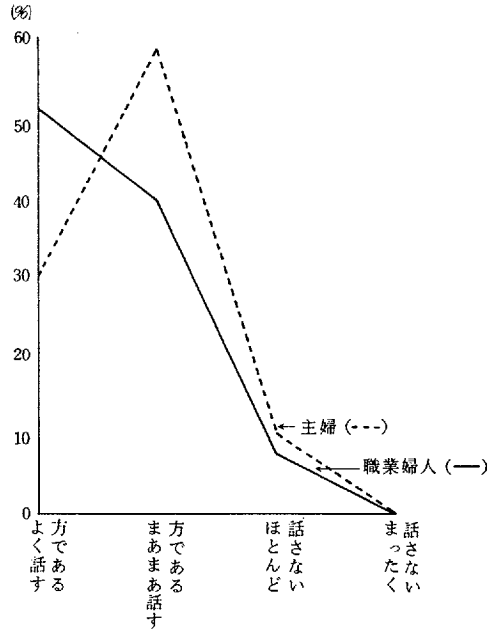


図-1 主人と育て方についての会話度

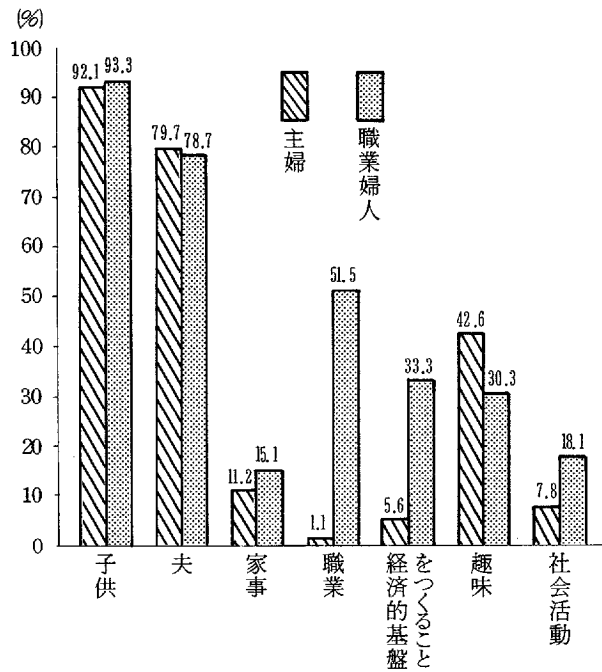


図-2 生きがい

表-1 主婦，職業婦人の母性意識の分布

回答項目	程 度			
	よくある (よくあった)	時々ある (時々あった)	たまにある (たまにあった)	全くない (全くなかった)
充実感がある	35.9 (54.5)	44.9 (21.2)	14.6 (21.2)	2.2 (0.0)
子供をもって自分も成長できた	53.9 (66.6)	32.5 (21.2)	10.1 (6.1)	3.3 (3.1)
子供は自分の一部のような感じだ	13.4 (27.2)	20.2 (21.2)	31.4 (33.3)	32.6 (18.1)
自分の関心・時間を子供にとられて視野が狭くなるようだ	2.2 (9.0)	14.6 (21.2)	41.5 (18.1)	40.4 (48.5)
自分のやりたいことができなくてあせる	2.2 (15.2)	25.8 (18.2)	42.6 (36.3)	28.1 (33.3)
育児ノイローゼになる心境に共感できる	4.5 (3.0)	7.8 (36.4)	46.0 (27.3)	38.2 (30.3)

注：上段が主婦

：下段の()内が職業婦人

表-2 現在の年齢と結婚年齢

(単位：%)

結婚年齢	年 齢			
	～29	30～34	35～39	40～44
～19	4.0	3.2	1.5	2.9
20～24	60.9	65.6	63.8	58.6
25～29	35.2	26.4	31.7	33.6
30～	0.0	4.2	3.0	4.9
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

表-3 現在の年齢と子供数

(単位：%)

年 齢 子ども数	～29	30～34	35～39	40～44
0 人	11.1	1.1	2.2	4.2
1	48.1	23.2	13.5	13.8
2	38.8	60.4	61.9	63.1
3	11.1	15.3	21.1	17.2
4	0.0	0.0	1.3	1.5
5	0.0	0.0	0.0	0.2
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

表-4 現在の年齢と自然流産回数

(単位：%)

年 齢 自然流産	～29	30～34	35～39	40～44
1	83.3	73.3	81.6	72.9
2	16.7	23.3	12.8	18.6
3	0.0	3.4	5.6	3.9
4	0.0	0.0	0.0	0.7
5	0.0	0.0	0.0	3.9
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0

表-5 現在の年齢と人工流産回数

(単位：%)

年 齢 人工流産	～29	30～34	35～39	40～44
1 回	92.3	76.0	70.6	51.1
2	7.2	15.2	22.3	33.2
3	0.0	6.5	6.6	11.3
4	0.0	2.3	0.0	1.8
5	0.0	0.0	0.5	2.6
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 研究目的

本研究は、年齢4歳から15歳までの児童を有する主婦と職業婦人が、母性意識や健康実態の上でどのような状況にあるかを研究することを目的としている。